

横浜災害ボランティアネットワーク会議

令和6年度 事業計画

(横浜災害ボランティアネットワーク会議基本方針)

- 1 横浜市18区、災害ボランティアセンター開設訓練に積極的支援参加協力
ICT活用のノウハウの習得の為研修会の開催、マニュアルの作成着手
- 2 会員間の情報共有の手段の多様化を促進する「顔の見える関係づくりを重視」
4ブロック会議・市域団体ブロック会議の定例化、ブロック間の交流促進
- 3 災害ボランティア支援マニュアルの習得、研修会の開催 被災地支援のボラバス参加
- 4 行政はじめ各機関との連携強化 地域防災組織との連携（横浜市主催の防災訓練参加）
- 5 周年行事・災害関連啓発日、区のイベント等に参加、横浜災害ボランティアネットワーク会議の活動理解と周知及び参加の呼びかけ

- 1 横浜災害ボランティアネットワーク会議（以下 YSVN 会議と言う）組織の再構築
災害ボランティアのノウハウ習得団体としてのスキルアップ研修を実施する
ICT活用を含め効率的なセンター運営を目指し区のセンター開設に支援できるスキルを身に着ける（シリーズ研修会、Web会議及びWeb研修会の活用）
- 2 会員間の情報共有はEメール・ライン・フェイスブック・メッセージャーと多様化する中、使いやすさを基本に事務局を中心に活用していく
研修会もブロック別に開催が出来る体制と相互乗り入れが可能にする
市域ブロックの特色を生かした連携と協働を促進する
- 3 被災地支援活動は災害時の受援活動に繋がる 災害ボランティアのノウハウを習得する
災害に応じたノウハウの研修会を開催する（オープンスクール）
他団体主催の研修会の案内も積極的に配信する（経済的支援も考慮する）
- 4 横浜市の開催するイベント（9都県市防災訓練）に協力参加し YSVN 会議の広報を行う
震災対策技術展も大切な広報の場として活用したい
市域を超えた連携（神奈川災害ボランティアネットワークとの連携及び全国の災害ボランティア団体との連携）も受援力の強化につなげる、
- 5 9・1、1・17、3・11、等追悼イベントの記憶防災の良い機会を生かす
各区のイベントにも情報共有し積極的に参加する。
首都直下地震・三浦半島活断層地震、身近に災害の震源想定地あり、備えをする
- 6 災害情報の収集と発信、ボランティアバスによる支援活動の情報提供
会員のスキルアップにつながる講座等開催及び開催紹介をしていく
- 7 YSVN 会議の組織強化を図るため、新体制で新たな活動を試みます